

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2015年8月31日から2021年2月3日 (当初、2025年8月20日)まで
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、欧州の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド 欧州の取引所に上場している株式等
当ファンドの運用方法	■主として欧州の取引所に上場している株式(預託証券(DR)を含みます。)等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ■実際の運用は、マザーファンドを通じて行います。マザーファンドの運用指図に関する権限の一部をユニオンバンクグループブリュッセルユービーピーエスエーロンドン支店に委託します。 ■配当利回りの水準や配当余力等に着目し、厳選した銘柄に投資します。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	当ファンド ■株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド ■株式への投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年2回(原則として毎年2月および8月の20日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

# EUROエクイティ・レンデメント・ファンド (円ヘッジなし)

【繰上償還 運用報告書(全体版)】

(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

第 11 期

償還日 2021年2月3日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、欧州の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。当期についても、運用方針に沿った運用を行い、2021年2月3日に繰上償還となりました。皆さまのご愛顧ありがとうございました。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

## ■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			株式組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率		
	円	円	%	%	百万円
7期(2019年2月20日)	9,322	0	△3.0	95.4	613
8期(2019年8月20日)	8,658	0	△7.1	93.6	392
9期(2020年2月20日)	10,275	0	18.7	93.8	448
10期(2020年8月20日)	9,894	0	△3.7	92.1	362
(償還時)	(償還価額)				
11期(2021年2月3日)	10,704.75	—	8.2	—	344

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		株式組入比率
		騰落率	
(期首)	円	%	%
2020年8月20日	9,894	—	92.1
8月末	9,885	△0.1	91.3
9月末	9,661	△2.4	91.7
10月末	9,105	△8.0	90.6
11月末	10,272	3.8	94.8
12月末	10,722	8.4	94.0
2021年1月末	10,711	8.3	—
(償還時)	(償還価額)		
2021年2月3日	10,704.75	8.2	—

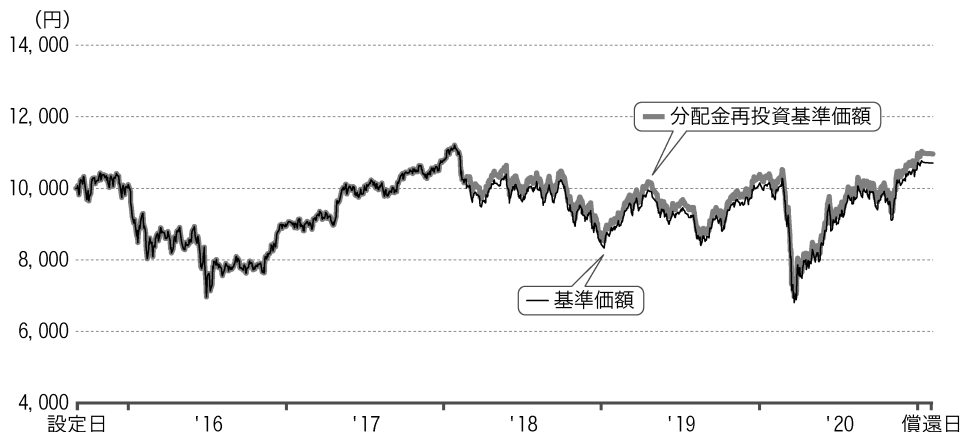
※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

## 設定以来の運用状況（設定日（2015年8月31日）から償還日（2021年2月3日）まで）

## 設定以来の基準価額の推移



## 前期までの概略（設定日（2015年8月31日）から第10期末（2020年8月20日）まで）

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として欧州の取引所に上場している株式（預託証券（DR）を含みます。）等に投資しました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。なお、マザーファンドの運用指図に関する権限の一部をユニオンバンケール プリヴェ ユービーピー エスエー ロンドン支店に委託しています。

以下は、設定日から第10期末までの基準価額の変動要因です。

## 【第1期（設定日（2015年8月31日）から2016年2月22日まで）】

上昇要因	・ 2015年10月から11月にかけて欧州株式市場が上昇したこと
下落要因	・ 2015年12月から期末にかけて欧州株式市場が下落したこと ・ 期を通じてユーロに対して円高傾向となったこと

【第2期（2016年2月23日から2016年8月22日まで）】

上昇要因	・ EU（欧州連合）離脱の選択という英国の予想外の国民投票結果を受けた市場のリスク回避姿勢が緩和したこと
下落要因	・ 6月下旬の英国国民投票の結果を受けて欧州株式市場が下落、対円で欧州通貨が下落したこと

【第3期（2016年8月23日から2017年2月20日まで）】

上昇要因	・ 2016年11月中旬から2017年1月中旬にかけて、米大統領選の結果を受け世界的にリスク・オン（リスク選好）相場となって欧州の株式市場が上昇したこと ・ 11月の米大統領選の結果を受け、ユーロや英ポンドが円に対して上昇したこと
下落要因	・ 9月上旬から下旬にかけて、ドイツの大手銀行の株価が急落し、銀行株主導で欧州の株式市場が下落したこと ・ 10月下旬から11月上旬にかけて、米国大統領選挙に対する不透明感が高まったこと

【第4期（2017年2月21日から2017年8月21日まで）】

上昇要因	・ 4月中旬から5月中旬にかけて、フランス大統領選挙を巡る欧州での政治リスクが後退したこと ・ 6月中旬から7月中旬にかけて、ドラギECB（欧州中央銀行）総裁による量的金融緩和縮小を示唆する発言などが背景となり、ユーロが円に対して上昇したこと
下落要因	・ 7月中旬から期末にかけて、欧州でドイツ自動車大手がカルテルを結んでいたことが報道されたことや、根強いECBによる量的金融緩和策縮小観測などを背景に、欧州の株式市場が下落したこと

【第5期（2017年8月22日から2018年2月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初より11月上旬にかけて、ECBが金融政策の正常化に対して慎重な姿勢を維持したこと</li> <li>・ 11月下旬から2018年1月中旬にかけて、欧州景気が堅調な回復ペースを維持する中、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ ECBの金融緩和縮小観測などを背景に、欧州の通貨が円に対して上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月上旬から下旬にかけて、米国で税制改革の先行き不透明感が再び台頭したことなどを背景に、利益確定の動きが広がり、欧州の株式市場が下落したこと</li> <li>・ 1月中旬から2月中旬にかけて、世界的な長期金利の上昇を嫌気し、欧州の株式市場が下落したこと</li> </ul>

【第6期（2018年2月21日から2018年8月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月下旬から5月中旬にかけて、主要企業の好決算などを好感し、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 7月上旬から期末にかけて、米・EU間での貿易戦争回避への期待などを背景に、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初より3月下旬にかけて、貿易摩擦への懸念が強まる中、欧州株式市場も下落基調となったこと</li> <li>・ 5月中旬より7月上旬にかけて、南欧での政情不安や米中貿易摩擦激化への懸念などを背景に、欧州の株式市場が下落したこと</li> <li>・ ユーロや英ポンド、スイスフランが対円で下落したこと</li> </ul>

【第7期（2018年8月21日から2019年2月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初より9月下旬にかけて、英国のEU離脱交渉や米中通商協議再開への期待感などから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 1月上旬から期末にかけて、米中関係の改善期待などを背景に世界の主要株式市場が上昇する中、欧州株式市場も堅調な展開となったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月下旬から10月下旬にかけて、米国の長期金利上昇を嫌気し、米国株式市場がハイテク株などを中心に大幅に下落する中、欧州株式市場も軟調な展開となったこと</li> <li>・ 11月中旬より2019年1月上旬にかけて、米中貿易摩擦への懸念や世界景気の先行き不透明感などを背景に世界的に株式市場が大きく調整する中、欧州株式市場も下落したこと</li> <li>・ ユーロが円に対して下落したこと</li> </ul>

【第8期（2019年2月21日から2019年8月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初から4月中旬にかけて、米中通商協議の進展期待や、中国景気への警戒感が和らいだことなどから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 6月上旬から7月上旬にかけて、米国での利下げ観測が強まる中でECBの金融緩和観測も強まったことなどから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月中旬から6月上旬にかけて、米国での利下げ期待が後退したことや、米中貿易摩擦への懸念が再び高まったことなどを背景に、欧州株式市場が軟調な展開となったこと</li> <li>・ 8月から期末にかけては、トランプ米大統領が対中制裁関税の第4弾の発動を表明したことなどを受け、欧州株式市場が軟調な展開となったこと</li> <li>・ ユーロ、英ポンド、スイスフランなどが円に対して下落したこと</li> </ul>

【第9期（2019年8月21日から2020年2月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通してみれば、米中通商協議の進展への期待などを背景に、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ ユーロ、英ポンド、スイスフランなどが円に対して上昇したこと</li> </ul>
------	--

【第10期（2020年2月21日から2020年8月20日まで）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーロ、スイスフランが円に対して上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通してみれば、新型コロナウイルスの感染拡大懸念などを背景に、欧州株式市場が下落したこと</li> <li>・ 英ポンドが円に対して下落したこと</li> </ul>

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

## 基準価額等の推移



期首	9,894円
----	--------

償還日	10,704円75銭
-----	------------

騰落率	+8.2%
-----	-------

基準価額の主な変動要因(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として欧州の取引所に上場している株式(預託証券(DR)を含みます。)等に投資しました。実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。なお、マザーファンドの運用指図に関する権限の一部をユニオンバンカール プリヴェ ユービーピー エスエー ロンドン支店に委託しています。

### 上昇要因

- 期を通してみれば、世界の中央銀行による金融緩和が継続したことや、新型コロナウイルスワクチン普及への期待感などから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと
- ユーロ、英ポンド、スイスフランが円に対して上昇したこと

## 投資環境について（2020年8月21日から2021年2月3日まで）

当期の欧州株式市場は上昇しました。為替市場ではユーロ、英ポンド、スイスフランは円に対して上昇しました。

### 欧州株式市場

期初から10月下旬にかけては、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い再びロックダウン（都市封鎖）が実施されたことや、米国大統領選挙を巡る政治的不透明感などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まり、下落しました。11月から償還日にかけては、米国大統領選を無事終えたことや、新型コロナワクチン普及への期待感などから投資家のリスク選好姿勢が強まり、欧州株式市場は上昇しました。

当期の市場の動きをMSCIヨーロッパ指数（ユーロベース）で見ると、期首に比べて9.6%上昇しました。

### 為替市場

当期のユーロ・円は、期を通じてみると上昇しました。欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大したことに伴いロックダウンが再導入されたことなどを背景に、期初より10月下旬にかけて円高基調で推移しました。

11月から償還日にかけては、新型コロナウイルスのワクチン普及に対する期待感や欧米の株式市場が上昇し投資家のリスク選好の動きが強まったことなどから、ユーロが上昇しました。

スイスフラン・円は、期を通じてみると上昇しました。概ねユーロ・円に追随する動きとなりました。

英ポンド・円は、期を通じてみると上昇しました。期初から9月中旬にかけては「合意なきEU離脱」の懸念が浮上し、英ポンド・円は下落しました。9月下旬から償還日にかけては、新型コロナウイルスのワクチン普及に対する期待感や、欧米の株式市場が上昇し投資家のリスク選好の動きが強まったことなどから、英ポンドは上昇しました。

当期のユーロ・円は、期首125円67銭から償還日126円46銭と0円79銭のユーロ高・円安、スイスフラン・円は、期首115円96銭から償還日116円98銭と1円02銭のスイスフラン高・円安、英ポンド・円は、期首139円05銭から償還日143円49銭と4円44銭の英ポンド高・円安となりました。



ポートフォリオについて（2020年8月21日から2021年2月3日まで）

## 当ファンド

期を通じて「EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド」を高位に組み入れました。

なお、マザーファンドは2021年2月2日に償還を迎えました。

## EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド

### ●国別配分

配当利回りの水準や配当余力に着目するとともに、インパクト投資（従来の投資収益の

獲得に加え、投資を通じて社会的課題の解決を目指す投資）関連の銘柄を買い増す機会を探る中、イギリス、スイス、スウェーデン、ドイツなどに多く配分しました。

### ●業種配分

ボトムアップの銘柄選択により、素材、保険、資本財、医薬品・バイオテクノロジーなどに多く配分しました。

償還に向けて、1月上旬に保有銘柄を全売却しました。

ベンチマークとの差異について（2020年8月21日から2021年2月3日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2020年8月21日から2021年2月3日まで）

償還のため、該当事項はございません。

## 2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

該当事項はございません。

### 繰上償還について

当ファンドは、信託約款の繰上償還規定の「受益権の口数が10億口を下回る」状態が継続していることから、運用の基本方針に従った運用を続けることが困難となっており、繰上償還することが受益者の皆さまに有利であるとの判断から、繰上償還の手続きを実施させていただきました。

法令および信託約款の規定に従い、2020年12月22日に書面決議を行い、2021年2月3日をもって繰上償還となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細（2020年8月21日から2021年2月3日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	84円 (43) (38) (3)	0.830% (0.428) (0.377) (0.025)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	4 (4)	0.035 (0.035)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (その他)	7 (4) (3)	0.069 (0.039) (0.030)	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送入金・資産の移転等に要する費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	95	0.934	

期中の平均基準価額は10,059円です。

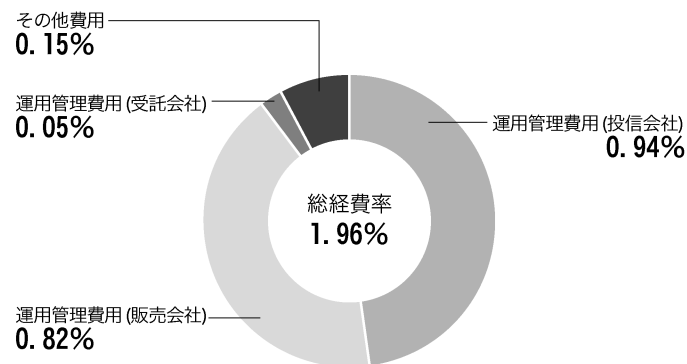
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

## 参考情報 総経費率（年率換算）



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は1.96%です。

## EUROエクイティ・レンデメント・ファンド（円ヘッジなし）

### ■ 当期中の売買及び取引の状況(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド	千口 12,202	千円 13,407	千口 329,134	千円 396,261

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

### ■ 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

項 目	当 期
	EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	481,427千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	431,626千円
(c) 売買高比率 ( a ) / ( b )	1.11

※単位未満は切捨て。

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

### ■ 利害関係人との取引状況等(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2020年8月21日から2021年2月3日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

### ■ 組入れ資産の明細(2021年2月3日現在)

親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド	千口 316,931	千口 -	千円 -

※単位未満は切捨て。

## ■ 投資信託財産の構成

（2021年2月3日現在）

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	347,447	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	347,447	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

（2021年2月3日現在）

項 目	償 還 時
(A) 資 産	347,447,342円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	347,447,342
(B) 負 債	2,931,951
未 払 信 託 報 酬	2,930,975
未 払 利 息	924
そ の 他 未 払 費 用	52
(C) 純 資 産 総 額 ( A - B )	344,515,391
元 本	321,834,049
償 還 差 益 金	22,681,342
(D) 受 益 権 総 口 数	321,834,049口
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 ( C / D )	10,704円75銭

※当期における期首元本額366,571,368円、期中追加設定元本額8,052,432円、期中一部解約元本額52,789,751円です。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

（自2020年8月21日 至2021年2月3日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 2,542円
支 払 利 息	△ 2,542
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	29,111,274
売 買 益	30,998,331
売 買 損	△ 1,887,057
(C) 信 託 報 酬 等	△ 2,931,306
(D) 当 期 損 益 金 ( A + B + C )	26,177,426
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 8,370,424
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,874,340
( 配 当 等 相 当 額 )	( 7,772,411)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 2,898,071)
償 還 差 益 金 ( D + E + F )	22,681,342

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※当ファンドにおいて「EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド」の運用の指図にかかる権限の一部委託に要する費用のうち当ファンドに相当する費用は708,774円（消費税等相当額を含む）です。（2020年8月21日～2021年2月3日、当社計算値）

## ■ 投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2015年8月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2021年2月3日		資産総額	347,447,342円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	2,931,951円
受益権口数	4,859,812,636口	321,834,049口	△4,537,978,587口	純資産総額	344,515,391円
元本額	4,859,812,636円	321,834,049円	△4,537,978,587円	受益権口数	321,834,049口
				1万口当たり償還金	10,704.75円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	6,605,688,438	5,576,340,333	8,442	0	0.00
第2期	2,194,573,538	1,699,863,107	7,746	0	0.00
第3期	1,189,954,525	1,066,412,356	8,962	0	0.00
第4期	1,060,885,064	1,038,439,139	9,788	0	0.00
第5期	1,155,906,761	1,156,554,233	10,006	240	2.40
第6期	1,071,953,606	1,030,145,190	9,610	0	0.00
第7期	657,744,262	613,123,917	9,322	0	0.00
第8期	452,934,771	392,160,364	8,658	0	0.00
第9期	436,217,277	448,222,125	10,275	0	0.00
第10期	366,571,368	362,683,290	9,894	0	0.00

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

# EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド

第6期（2020年8月21日から2021年2月2日まで）

信託期間	2015年8月31日から2021年2月2日（当初、無期限）まで
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主として欧州の取引所に上場している株式（預託証券（DR）を含みます。）等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。</li> <li>■外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> <li>■ユニオン バンケール プリヴェ ユービーピー エスエー ロンドン支店に外貨建資産の運用指図に関する権限を委託します。</li> </ul>

## ■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		株 式 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		期 中 騰 落 率		
	円	%	%	百万円
2期(2017年8月21日)	10,167	29.0	95.5	1,188
3期(2018年8月20日)	10,420	2.5	96.0	1,197
4期(2019年8月20日)	9,560	△8.3	94.9	506
5期(2020年8月20日)	11,120	16.3	94.7	464
(償 還 時)	(償還価額)			
6期(2021年2月2日)	12,138.67	9.2	—	457

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

## ■当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		株 式 組 入 比 率
		騰 落 率	
(期 首)	円	%	%
2020年8月20日	11,120	—	94.7
8月末	11,114	△0.1	92.5
9月末	10,875	△2.2	92.9
10月末	10,259	△7.7	91.6
11月末	11,606	4.4	95.6
12月末	12,136	9.1	94.7
2021年1月末	12,142	9.2	—
(償 還 時)	(償還価額)		
2021年2月2日	12,138.67	9.2	—

※騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

## 設定以来の運用状況 (設定日 (2015年8月31日) から償還日 (2021年2月2日) まで)

## 設定以来の基準価額の推移



## 前期までの概略 (設定日 (2015年8月31日) から第5期末 (2020年8月20日) まで)

当ファンドは、主として欧州の取引所に上場している株式（預託証券（DR）を含みます。）等に投資しました。外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行っていません。なお、運用指図に関する権限の一部をユニオン バンケール プリヴェ ユービーピー エスエー ロンドン支店に委託しています。

以下は、設定日から第5期末までの基準価額の変動要因です。

## 【第1期 (設定日 (2015年8月31日) から2016年8月22日まで)】

上昇要因	・ 2015年10月から11月にかけて欧州株式市場が上昇したこと
下落要因	・ 12月から2016年2月下旬にかけて欧州株式市場が下落したこと ・ 6月下旬の英国国民投票の結果を受けて欧州株式市場が下落、対円で欧州通貨が下落したこと



【第2期(2016年8月23日から2017年8月21日まで)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016年11月の米大統領選の結果を受け、ユーロや英ポンドが円に対して上昇したこと</li> <li>・ 11月中旬から2017年1月中旬にかけて、米大統領選の結果を受け世界的にリスク・オン（リスク選好）相場となって欧州の株式市場が上昇したこと</li> <li>・ 4月中旬から5月中旬にかけて、フランス大統領選挙を巡る欧州での政治リスクが後退したこと</li> <li>・ 6月中旬から7月中旬にかけて、ドラギECB（欧州中央銀行）総裁による量的金融緩和縮小を示唆する発言などが背景となり、ユーロが円に対して上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月上旬から下旬にかけて、ドイツの大手銀行の株価が急落し、銀行株主導で欧州の株式市場が下落したこと</li> <li>・ 10月下旬から11月上旬にかけて、米大統領選挙に対する不透明感が高まったこと</li> <li>・ 7月中旬から期末にかけて、欧州でドイツ自動車大手がカルテルを結んでいたことが報道されたことや、根強いECBによる量的金融緩和策縮小観測などを背景に、欧州の株式市場が下落したこと</li> </ul>

【第3期(2017年8月22日から2018年8月20日まで)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初より11月上旬にかけて、ECBが金融政策の正常化に対して慎重な姿勢を維持したこと</li> <li>・ 11月下旬から2018年1月中旬にかけて、欧州景気が堅調な回復ペースを維持する中、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 3月下旬から5月中旬にかけて、主要企業の好決算などを好感し、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 7月上旬から期末にかけて、米・EU間での貿易戦争回避への期待などを背景に、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月上旬から下旬にかけて、米国で税制改革の先行き不透明感が再び台頭したことなどを背景に、利益確定の動きが広がり、欧州の株式市場が下落したこと</li> <li>・ 1月中旬から3月下旬にかけて、世界的な長期金利の上昇や貿易摩擦への懸念を嫌気し、欧州の株式市場が下落したこと</li> <li>・ 5月中旬より7月上旬にかけて、南欧での政情不安や米中貿易摩擦激化への懸念などを背景に、欧州の株式市場が下落したこと</li> </ul>

【第4期(2018年8月21日から2019年8月20日まで)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初より9月下旬にかけて、英国のEU離脱交渉や米中通商協議再開への期待感などから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 1月上旬から4月中旬にかけて、米中関係の改善期待や中国景気への警戒感が和らいだことなどから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> <li>・ 6月上旬から7月上旬にかけて、米国での利下げ観測が強まる中でECBの金融緩和観測も強まったことなどから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月下旬から10月下旬にかけて、米国の長期金利上昇を嫌気し、米国株式市場がハイテク株などを中心に大幅に下落する中、欧州株式市場も軟調な展開となったこと</li> <li>・ 11月中旬より2019年1月上旬にかけて、米中貿易摩擦への懸念や世界景気の先行き不透明感などを背景に世界的に株式市場が大きく調整する中、欧州株式市場も下落したこと</li> <li>・ 4月中旬から6月上旬にかけて、米国での利下げ期待が後退したことや、米中貿易摩擦への懸念が再び高まったことなどを背景に、欧州株式市場が軟調な展開となったこと</li> <li>・ 8月から期末にかけては、トランプ米大統領が対中制裁関税の第4弾の発動を表明したことなどを受け、欧州株式市場が軟調な展開となったこと</li> <li>・ ユーロが円に対して下落したこと</li> </ul>

【第5期(2019年8月21日から2020年8月20日まで)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期の前半に、米中通商協議の進展への期待などを背景に、欧州株式市場が概ね上昇傾向となり、為替市場では英ポンド、スイスフランなどが対円で堅調に推移したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期の後半に、新型コロナウイルスの感染拡大懸念などを背景に、欧州株式市場が下落したこと</li> </ul>

## 1 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について (2020年8月21日から2021年2月2日まで)

#### 基準価額等の推移



期首	11,120円
償還日	12,138円67銭
騰落率	+9.2%

### ▶ 基準価額の変動要因 (2020年8月21日から2021年2月2日まで)

当ファンドは、主として欧州の取引所に上場している株式（預託証券（DR）を含みます。）等に投資し、高配当利回りと増配期待に着目した銘柄選定を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。なお、運用指図に関する権限の一部をユニオンバンクグループ プリヴェーユービーピー エスエー ロンドン支店に委託しています。

#### 上昇要因

- ・ 期を通してみれば、世界の中央銀行による金融緩和が継続したことや、新型コロナウイルスワクチン普及への期待感などから、欧州株式市場が堅調な展開となったこと
- ・ ユーロ、英ポンド、スイスフランが円に対して上昇したこと

**▶ 投資環境について (2020年8月21日から2021年2月2日まで)**

当期の欧州株式市場は上昇しました。為替市場ではユーロ、英ポンド、スイスフランは円に対して上昇しました。

**欧州株式市場**

期初から10月下旬にかけては、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い再びロックダウン（都市封鎖）が実施されたことや、米国大統領選挙を巡る政治的不透明感などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まり、下落しました。11月から償還日にかけては、米国大統領選を無事終えたことや、新型コロナワクチン普及への期待感などから投資家のリスク選好姿勢が強まり、欧州株式市場は上昇しました。

当期の市場の動きをMSCIヨーロッパ指数（ユーロベース）で見ると、期首に比べて8.3%上昇しました。

**為替市場**

当期のユーロ・円は、期を通じてみると上昇しました。欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大したことに伴いロックダウンが再導入されたことなどを背景に、期初より10月下旬にかけて円高基調で推移しました。11月から償還日にかけては、新型コロナウイルスのワクチン普及に対する期待感や欧米の株式市場が上昇し投資家のリスク選好の動きが強まったことなどから、ユーロが上昇しました。

スイスフラン・円は、期を通じてみると上昇しました。概ねユーロ・円に追随する動きとなりました。

英ポンド・円は、期を通じてみると上昇しました。期初から9月中旬にかけては「合意なきEU離脱」の懸念が浮上し、英ポンド・円は下落しました。9月下旬から償還日にかけては、新型コロナウイルスのワクチン普及に対する期待感や、欧米の株式市場が上昇し投資家のリスク選好の動きが強まったことなどから、英ポンドは上昇しました。

当期のユーロ・円は、期首125円67銭から償還日126円51銭と0円84銭のユーロ高・円安、スイスフラン・円は、期首115円96銭から償還日116円92銭と0円96銭のスイスフラン高・円安、英ポンド・円は、期首139円05銭から償還日143円32銭と4円27銭の英ポンド高・円安となりました。

---

**▶ ポートフォリオについて (2020年8月21日から2021年2月2日まで)**

---

**国別配分**

配当利回りの水準や配当余力に着目するとともに、インパクト投資（従来の投資収益の獲得に加え、投資を通じて社会的課題の解決を目指す投資）関連の銘柄を買い増す機会を探る中、イギリス、スイス、スウェーデン、ドイツなどに多く配分しました。

**業種配分**

ボトムアップの銘柄選択により、素材、保険、資本財、医薬品・バイオテクノロジーなどに多く配分しました。

償還に向けて、1月上旬に保有銘柄を全売却しました。

---

**▶ ベンチマークとの差異について (2020年8月21日から2021年2月2日まで)**

---

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## **2 今後の運用方針**

償還のため、該当事項はございません。

■ 1万口当たりの費用明細(2020年8月21日から2021年2月2日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 売買委託手数料 (株式)	4円 (4)	0.036% (0.036)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	11 (7) (3)	0.096 (0.066) (0.031)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送入金・資産の移転等に要する費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	15	0.132	

期中の平均基準価額は11,355円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2020年8月21日から2021年2月2日まで)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外	ユ				
	ド	百株	千ユーロ	百株	千ユーロ
	イ	—	—	129	453
	タ	(2)	(—)	—	—
	ラ	—	—	1	33
	ン	—	—	147	216
	ス	—	—	139	217
	オ	(△29)	(△144)	—	—
	ラ	—	—	176	79
	ン	—	—	27	140
	ダ	—	—	19	65
国	ス	—	—	290	241
	ペ	—	—	471	324
	イ	—	—	60	192
	ン	(29)	(144)	—	—
	ル	—	千英ポンド	—	千英ポンド
	ク	—	—	508	713
	セ	—	千スイスフラン	—	千スイスフラン
	—	—	34	550	
	プ	—	—	—	—
	ル	—	—	—	—
ランド	—	—	—	—	

# EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	ス ウ ェ ー デ ン	-	千スウェーデンクローナ -	191	千スウェーデンクローナ 4,170
	デ ン マ ー ク	-	千デンマーククローネ -	13	千デンマーククローネ 833

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2020年8月21日から2021年2月2日まで)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	481,427千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	431,626千円
(c) 売 買 高 比 率 ( a ) / ( b )	1.11

※単位未満は切捨て。

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

## ■ 利害関係人との取引状況等(2020年8月21日から2021年2月2日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2020年8月21日から2021年2月2日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■ 組入れ資産の明細(2021年2月2日現在)

外国株式

銘 柄	期首(前期末)		期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ユーロ・・・ドイツ)	百株	百株	千ユーロ	千円	
RWE AG	34	-	-	-	公益事業
ALLIANZ SE-REG	5	-	-	-	保険
SIEMENS AG-REG	4	-	-	-	資本財
DEUTSCHE TELEKOM AG-REG	71	-	-	-	電気通信サービス
HELLA KGAA HUECK & COMPANY	11	-	-	-	自動車・自動車部品
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	127 5	-	-	

EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド

銘柄	期首(前期末)		期末		業種等
	株数	株数	評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ユーロ・・・イタリア)					
DIASORIN SPA	1	-	-	-	ヘルスケア機器・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1 1	- -	- -	
(ユーロ・・・フランス)					
ORANGE S. A.	88	-	-	-	電気通信サービス
VALEO SA	18	-	-	-	自動車・自動車部品
SPIE SA	41	-	-	-	商業・専門サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	147 3	- -	- -	
(ユーロ・・・オランダ)					
ARCADIS NV	55	-	-	-	資本財
UNILEVER NV	29	-	-	-	家庭用品・パーソナル用品
ING GROEP NV-CVA	84	-	-	-	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	169 3	- -	- -	
(ユーロ・・・スペイン)					
BANKINTER, S. A.	176	-	-	-	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	176 1	- -	- -	
(ユーロ・・・ルクセンブルク)					
BEFESA SA	27	-	-	-	商業・専門サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	27 1	- -	- -	
(ユーロ・・・フィンランド)					
SAMPO OYJ-A SHS	19	-	-	-	保険
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	19 1	- -	- -	
(ユーロ・・・アイルランド)					
CRH PLC	15	-	-	-	素材
KINGSPAN GROUP PLC	22	-	-	-	資本財
AIB GROUP PLC	252	-	-	-	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	290 3	- -	- -	
(ユーロ・・・ポルトガル)					
EDP-ENERGIAS DE PORTUGAL SA	326	-	-	-	公益事業
CORTICEIRA AMORIM SA	99	-	-	-	素材
GALP ENERGIA SGPS S. A	44	-	-	-	エネルギー
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	471 3	- -	- -	
(ユーロ・・・その他)					
ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	31	-	-	-	エネルギー
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	31 1	- -	- -	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,462 22	- -	- -	



# EUROエクイティ・レンデメント・マザーファンド

銘柄	期首(前期末)	期末			業種等
		株数	株数	評価額	
				外貨建金額	
(イギリス)				千英ポンド	
DIAGEO PLC	29	—	—	—	食品・飲料・タバコ
PRUDENTIAL PLC	67	—	—	—	保険
RIO TINTO PLC	22	—	—	—	素材
ASTRAZENECA PLC	18	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CRODA INTERNATIONAL PLC	26	—	—	—	素材
SABRE INSURANCE GROUP PLC-WI	344	—	—	—	保険
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	508 6	— —	— —	— —
(スイス)				千スイスフラン	
ZURICH INSURANCE GROUP AG	3	—	—	—	保険
ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	5	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CEMBRA MONEY BANK AG-NOMINATIVES-	10	—	—	—	各種金融
BANQUE CANTONALE VAUDOISE REG	14	—	—	—	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	34 4	— —	— —	— —
(スウェーデン)				千スウェーデンクローナ	
ERICSSON LM-B SHS	106	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ATLAS COPCO AB-A SHS	36	—	—	—	資本財
THULE GROUP AB/THE	48	—	—	—	耐久消費財・アパレル
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	191 3	— —	— —	— —
(デンマーク)				千デンマーククローネ	
CHR HANSEN HOLDING A/S	13	—	—	—	素材
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	13 1	— —	— —	— —
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	2,210 36	— —	— —	— —

※<>内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※-印は組入れなし。

※銘柄コードの変更等、管理上の都合により同一銘柄であっても別銘柄として記載されている場合があります。

## ■ 投資信託財産の構成

(2021年2月2日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
コーポレートローン等、その他	千円	%
	457,696	100.0
投資信託財産総額	457,696	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2021年2月2日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	457,696,592円
コール・ローン等	457,696,592
(B) 負 債	6,439
未 払 利 息	1,245
そ の 他 未 払 費 用	5,194
(C) 純資産総額 (A - B)	457,690,153
元 本	377,051,446
償 還 差 益 金	80,638,707
(D) 受 益 権 総 口 数	377,051,446口
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 (C/D)	12,138円67銭

※当期における期首元本額417,340,073円、期中追加設定元本額20,017,528円、期中一部解約元本額60,306,155円です。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

EUROエクイティ・レンデメント・ファンド (円ヘッジあり) 94,638,929円

EUROエクイティ・レンデメント・ファンド (円ヘッジなし) 282,412,517円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ お知らせ

### <約款変更について>

該当事項はございません。

## ■ 損益の状況

(自2020年8月21日 至2021年2月2日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,097,398円
受 取 配 当 金	1,123,551
支 払 利 息	△ 26,153
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	40,422,411
売 買 益	49,817,075
売 買 損	△ 9,394,664
(C) 信 託 報 酬 等	△ 446,277
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	41,073,532
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	46,724,548
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	2,006,472
(G) 解 約 差 損 益 金	△ 9,165,845
償 還 差 益 金 (D + E + F + G)	80,638,707

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

※当ファンドの運用の指図にかかる権限の一部委託に要する費用は950,214円です。(2020年8月21日～2021年2月2日、当社計算値)